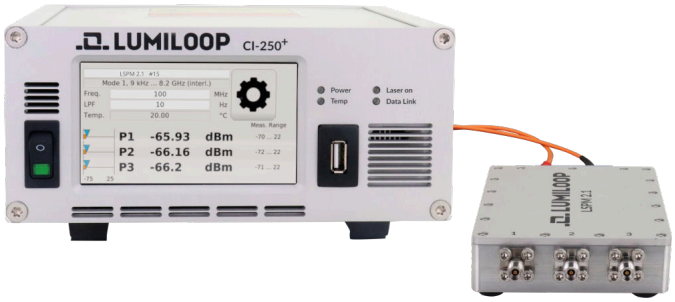
LSPM 1.1/2.1 CI-250$^+$ クイックスタートガイド

LUMILOOP GmbH

2026 年 3 月 13 日

このドキュメントの最新バージョンと LSPM ユーザーズマニュアル全文は Web サイトに掲載されています www.lumiloop.de.

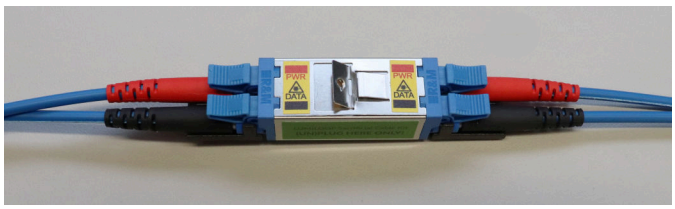
1 システムの概要



LSPM x.1 パワーメーター CI-250$^+$ システムはレーザー給電式高速 RF パワーメータ LSPMx.1 、シングルボードコンピュータとタッチスクリーンを一体化した PC インターフェイス CI-250$^+$、AC 電源コード、USB フラッシュメモリで構成されています。
CI-250$^+$ コンピュータインターフェイスには LUMILOOP TCP サーバー、LUMILOOP GUI、工場校正データ（オプションで認定校正データ）がプリインストールされた状態で出荷されます。
USB フラッシュドライブには LUMILOOP Windows Installer、‘+’ 機器のリモートアクセスに使う LUMILOOP GUI、および校正データが格納されています。サードパーティー製の EMC ソフトウェアは SCPI コマンドを使用した TCP/IP 接続を介して LSPM、CI-250$^+$ と通信します。サードパーティの EMC ソフトウェアは、TCP/IP 経由で交換される SCPI コマンドを使用して I-250$^+$ LSPM と通信します。

2 光ファイバーの接続

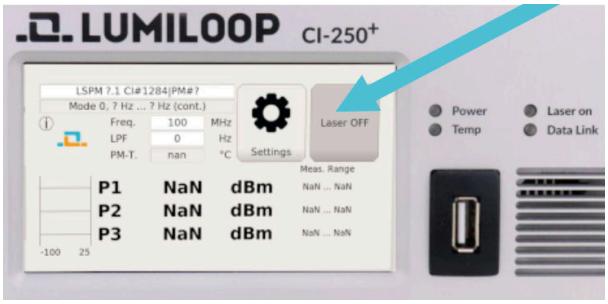
注意：すべての LSPM 1.1/2.1 は光コネクタが差し込まれた状態で出荷され、そのまま使用できます



各 LSPM 1.1/2.1 システム には、予備の犠牲光ケーブルキットが付属しています。光接続時、取り外し時には、常に E2000 コネクタを使います。交換用スペア光ケーブルの E2000 コネクタは、汚染防止とそれに起因する光ファイバーの焼損を防止する自動シャッターを備えています。とは言え、すべての光コネクタ接続部は、E2000 コネクタのシャッター部分も含め、常時完全にクリーンな状態を保つ必要があります。
光ケーブルを焼損した場合は、ユーザー自身で **２組** 交換用犠牲ケーブルのみを交換するだけで良く、低コストでスピーディな復旧が可能です。
詳細は、LSPM 取扱説明書の 項を参照してください。6.2.1.

3 システムスタートアップ

1. 付属の主電源コードを CI-250$^+$ に接続します。
2. フロントパネルのスイッチを「緑」に設定して CI-250$^+$ をオンにし、フロント USB ポートの上にある緑色の「電源」LED が点滅し始めるのを確認します。LUMILOOP TCP サーバーと LUMILOOP ‘+’ デバイス GUI が自動的に起動します。緑色の「電源」LED が常時点灯状態となることで、正常に動作していることを示します。



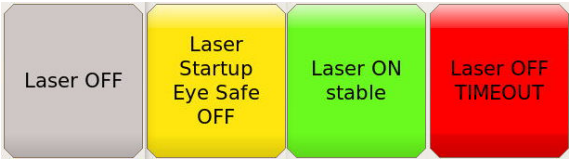
3. USB 経由で他の LUMILOOP LSProbe や LSPM も追加できます, CI-250$^+$ に接続できます。

4 LUMILOOP ‘+’Device GUI

LUMILOOP ‘+’Device GUIDevice GUI はシステム起動後に自動的に起動し、バックグランドで動作している LUMILOOP TCP Server と通信します。

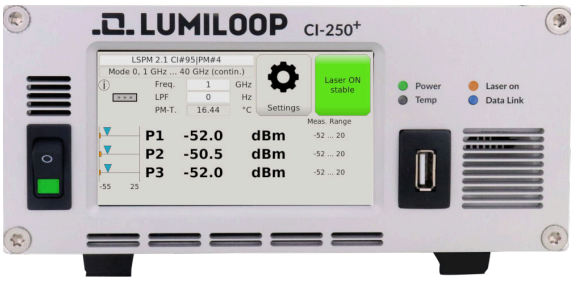
1. Laser OFF」ボタンをタップするとレーザー供給を開始し LSPM のレーザー駆動がオンになります。コンピューターインターフェイスのオレンジ色の「Laser ON」LED が供給レーザーの動作状態を示します。

   注意：オレンジの LED が点滅した場合は、自動パワー制御機能（APR）が動作しないことを示しています。光接続部に異常がある可能性があります。



   上に示すようにレーザーの状態は GUI に表示され、「Power」「Laser on」「Data Link」の LED に継続的に点灯していれば正常に動作しています。

2. GUI には、使用可能なすべてのチャネルの RF 電力値、最大および最小の校正済み電力値、および設定されたモードの周波数が表示されます。

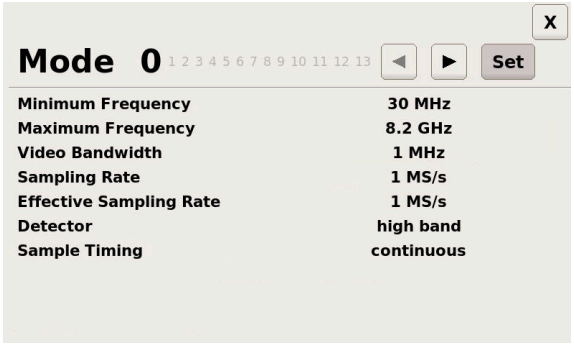


3. 正確な測定を行うには動作周波数を設定する必要があります。次の方法でオンスクリーンキーボードを開き任意の周波数を入力します。

   (a) 'Freq.' 力欄をタップする。。

   (b) 右上の歯車ボタンをクリックして'Settings' ダイアログを開き'Frequency' を選択します。

   数値はヘルツで入力します。SI 接頭語で表示されます。例）100MHz の場合 '100M' と表示されます。



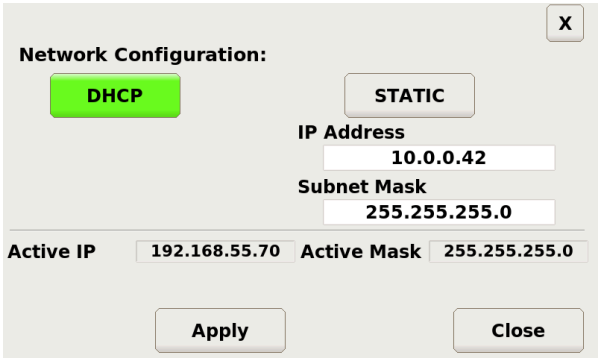
4. 画面上部の設定を開いて測定モードを変更します。「モード」を選択して選択します。画面上部の'Set' 設定を開いて測定モードを変更します。詳細については LSPM ユーザマニュアルのセクション 5.2.5 を参照してください。

5 リモート・コントロールとサードパーティ製ソフトウェアへのアクセス

CI-250+ デバイスの高度なソフトウェア機能、つまり波形記録、パルス評価、統計などには、TCP/IP 経由のリモート アクセスが必要です。サードパーティ ソフトウェア アクセスも同様の方法で実現されます。

1. CI-250+ デ とホストコンピューターをネットワークスイッチ経由で接続するか、パッチケーブルを使用して直接接続します。

2. CI-250+ のネットワーク設定は、「Network Configuration」ダイアログで表示および変更できます。右上の歯車ボタンをタップし、「Setting」ダイアログで「System」を選択し、「Network Configuration」を選択します。静的 (デフォルト) または DHCP ネットワーク設定がサポートされており、アクティブな設定は緑色で強調表示されます。アクティブな IP アドレスは設定の下に表示され、TCP ポートは 10001 です。デフォルトのアドレスとネットワークマスクは、10.0.0.42 と 255.255.255.0 です。



3. ホストコンピューターのネットワークを適切に構成し、サードパーティソフトウェアで IP アドレスと TCP ポートを設定します。

4. LUMILOOP GUI をリモートコンピュータから使用するには、USB ドライブに含まれている LUMILOOP Windows インストーラーをインストールします。LUMILOOP GUI を起動し、それに応じて接続設定を構成します。

メモ欄

warranty
lumiloop.de/support/register
LUMILOOP **デバイスを登録すると**
無償で 1 **年延長保証が受けられます。**
現在保証対象となっているすべての機器に適用されます。